

第3WG 評価コメント

評価者のコメント(評価シートに記載されたコメント)

事業番号3-18 (1)(独)理化学研究所

(大型放射光施設(SPring-8))

(2)(独)理化学研究所

(植物科学研究事業)

(3)(独)理化学研究所

(バイオリソース事業)

(大型放射光施設(SPring-8))

「大型放射光」としての利用について、見直し、利用時間の増加に向けて努力すべき。委託の必要はあるか。

現状のようにランニングコストとして国費を年86億投じ続けることに対するアウトプット(メリット)が説明されていない。高額高コストのインフラなら波及効果を含めたメリットを説明しきる努力が必要。年86億に見合うメリットは何か、説明が充分でなければ、国費を認めがたい。メリットそのものの問題ではない。説明の問題。

将来的にも、料金収入だけでは運営不可能で、国費の投入が避けられない以上、必要最低限の国費投入が原則である。ビームラインの増設は費用対効果が見込めない以上認められない。利用効率の低いラインのスクラップアンドビルドで自己努力すること。

自己収入を大きく高める余地あり。

国際協調の観点から広く(アジアの)他国から開発費・開発者をつのり、運営費を負担してもらうべき。

収入増の工夫の余地があると思われる。

収入増の努力が必要。利用促進に必要な経費の見直し。

収益確保すべきと思われる。シェアを削減。

固定費を明確にし、国費の負担部分を明確に。固定費と変動費を明確に分離する。その上で付加機能はコストをもとに拡充。

自己収入をあげるための努力を高める工夫が必要。

(植物科学研究事業)

事業の必要性。事業概要から判断して妥当な基礎研究かどうか不明。大学における研究との違いを明確にすべき。全体的科学研究予算の配分との整理。

応用研究については農水等にまとめて競争的資金へ。

食料増産等に役立つ植物科学研究をうたっているが、食料産業ニーズを意識しない基礎研究に陥っている。必要最低限の国費に抑えて、不足分は競争的資金でカバーすべきである。

他機関と強調すべき。

収益向上可能な部分をカット。

コスト削減の余地はある。アウトプットに対するコスト、絶対にやるべき基礎研究にどのくらい投じていくべきか、投じる額とアウトプットの関係の説明がない。

独法事業を極力減らすこと。NIAS との一本化も検討。

成果評価を明確に。また、運営費交付金全体の評価も明確に。

応用部分について収益増を見込むべき。

(バイオリソース事業)

応用研究については各省庁を横串でまとめて競争的資金にするべき。政治主導が必要と考える。

ライフサイエンス研究に役立つバイオリソース拠点といいながら、産業ニーズを意識しない基礎研究が行われているので、必要最低限の国費投入に抑えて、不足分は科研費等の競争的資金でまかなうべきである。

リソースの確保は国がやることにしても、一般に安く供給する必要はないのではないか。

理化学の運営費交付金の適正さについて今一度精査する必要あり。

受益者負担を大幅に増やすべき。

必要性は認めるが、費用が妥当かどうかを検討すべき。

成果評価を明確に。また、運営費交付金全体の評価も明確に。

コスト削減努力をすべき。収入増をすべき。

収益向上可能な部分をカット。

WGの評価結果

(独)理化学研究所 (大型放射光施設(SPring-8))

1/3から1/2程度予算の縮減

(予算計上見送り1名 予算要求の縮減10名(a半額3名、b1/3縮減3名、1割縮減2名 その他2名)

(独)理化学研究所 (植物科学研究事業)

1/3程度予算の縮減

(予算計上見送り1名 予算要求の縮減8名(a半額1名、b1/3縮減2名、1割から2割4名、その他1名) 予算要求通り2名)

(独)理化学研究所 (バイオリソース事業)

1/3程度予算の縮減

(廃止1名 予算要求の縮減8名(a半額1名、b1/3縮減4名、1割から2割縮減1名、1割縮減2名) 予算要求通り2名)

とりまとめコメント

第3ワーキンググループとしては、スプリング8については、少なくとも1/3から1/2の縮減を求めたい。また、理化学研究所の植物科学研究事業については、予算の縮減という意見のほか、来年度の予算計上は見送り、予算要求通りとする方が2名いるなどさまざまな意見があったが、圧倒的多数が縮減という意見であったため平均すると1/3の予算縮減と集約したい。さらに、同じ理化学研究所のバイオリソース事業についてもいろいろな意見があったが、縮減というご意見が8名と多く、こちらも、1/3縮減程度の予算縮減としてまとめたいと思う。